

第5次レッドデータブック：  
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

# ホシツリモ

*Nitellopsis obtusa*

坂山英俊（神戸大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 藻類分科会



環境省 編

令和7（2025）年3月



この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：坂山英俊. 2025. ホシツリモ. 環境省（編） 第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物.

Citation: Sakayama, H. 2025. *Nitellopsis obtusa*. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook: Threatened wildlife of Japan*.

# ホシツリモ

*Nitellopsis obtusa*

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) B2ab				
基準 A: —	基準 B: EN	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
B2. 生育地面積が 500 km <sup>2</sup> 未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生育地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。 【地点数】5 地点以下 b) 出現範囲、生育地面積、生育地の質、生育地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 ソウギョによる食害や水質汚濁により消失した地域がある。				
評価分科会： 藻類分科会				

## 概要

本種は雌雄異株で車軸藻類の中でもっとも大型に生長する。かつて国内では 4 県に分布していたが一旦は全て消滅した。現在では山梨県、千葉県、滋賀県、新潟県で生育すると考えられる。野生集団が絶滅した長野県では、地元産の系統保存株を用いた復元活動が地域住民によって行われている。

## 基礎情報

### 【形態】

雌雄異株で体長は40～70 cm程度、ときに2.5 mにもおよぶ。主軸は直径約1 mm、節間細胞はときに20 cmにもおよぶ。主軸の節部はしばしば肥厚する。主軸と輪生枝は皮層を欠く。また、刺細胞、托葉冠を持たない。輪生枝は2～3節からなり、節部から苞が1～2本ずつ生じ、長さ13 mmにおよび、その先端はしばしば細く尖っている。雌雄両器は輪生枝の節部に生じる。卵胞子は黄褐色で、球形に近く、螺旋縁は約7本。藻体基部の仮根部に白色、星形の栄養繁殖器官を形成し、この星形の栄養繁殖器官が和名の由来となった。

### 【生活史】

本種は日本において、湖沼毎に雄株あるいは雌株の一方のみが分布している場合が多く、繁殖はほとんどが仮根部につく星形の栄養繁殖器官によると考えられる。

### 【生育環境】

本種は主に湖沼に分布し、山地湖沼では透明度の値に相当する水深4～8 mの深い湖底に生育していた。

生育環境区分： 【陸域\_中標高地 低標高地】ため池・池沼, 湖・ダム湖

国土地域区分： (1) 奥山自然地域, (4) 河川・湿地地域

### 【分布域】

アジア、ヨーロッパに分布し、国内では千葉県、神奈川県、山梨県、長野県、滋賀県、新潟県に分布。

## 現在の生育状況

### 【分布域の現況】

詳細については不明だが、現在千葉県、山梨県、新潟県、滋賀県において、植物体として生育、あるいは散布体として存在していると考えられる。

### 【生育地の現況】

現存する生育地に関しては、生育環境に大きな変化はないと考えられるが、詳細については不明。

### 【個体数の現況】

詳細については不明。

## 存続を脅かす要因

長野県では1978年に導入されたソウギヨの食害により消滅、その他の地域では水質汚濁が消滅の要因と考えられている。

要因の区分： (過去) 水質汚濁, 捕食 (外来種による)

	(現在)	水質汚濁, 捕食 (外来種による)
--	------	-------------------

## 特記事項

2000年に野生絶滅とされたが、山梨県での再発見により、2007年に絶滅危惧Ⅰ類に変更された。また、近年、滋賀県の琵琶湖に生育することが明らかになった。域外保全、ソウギョの駆除や湖沼水質の保全が重要である。

## 旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desv.) J.Groves	CR+EN
第4次 2019:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desv.) J.Groves	CR+EN
第4次 2018:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desv.) J.Groves	CR+EN
第4次 2017:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desv.) J.Groves	CR+EN
第4次 2015:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desv.) J.Groves	CR+EN
第4次:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desv.) J.Groves	CR+EN
第3次:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desvaux) J. Groves	CR+EN
第2次:	ホシツリモ	<i>Nitellopsis obtusa</i> Groves	EW
第1次:	—	—	—

## 都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況 (令和4年度末時点)

千葉県[最重要・重要保護生物 (A-B)] 神奈川県[絶滅 (EX)] 長野県[野生絶滅 (EW)]

## 保護に係る法令指定状況 (令和4年度末時点)

指定なし

## 参考文献

- 千葉県, 2009. 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物・菌類編 (2009年改訂版), p. 398. 千葉.
- Kasaki, H., 1964. The Charophyta from the lakes of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 27: 215-314.
- Kato, S., S. Higuchi, Y. Kondo, S. Kitano, H. Nozaki and J. Tanaka, 2005. Rediscovery of the wild-extinct species *Nitellopsis obtusa* (Charales) in Lake Kawaguchi, Japan. J. Jpn. Bot., 80: 84-91.
- Kato, S., H. Kawai, M. Takimoto, H. Suga, K. Yohda, K. Horiya, S. Higuchi and H. Sakayama, 2014. Occurrence of the endangered species *Nitellopsis obtusa* (Charales, Charophyceae) in western Japan and the genetic differences within and among Japanese populations, Phycol. Res., 62: 222-227.

- 野崎久義・加崎英男・佐野郷美・渡辺信, 1994. 日本産車軸藻類ホシツリモ (*Nitellopsis obtusa*) の自然界での絶滅と復元の可能性. 日本植物分類学会報, 10: 45-50.

## アセスメントサマリー (Assessment summary)

*Nitellopsis obtusa* has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Nitellopsis obtusa* is listed as EN under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 500 km<sup>2</sup>, and estimate indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at only a single location.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
  - (i) extent of occurrence
  - (ii) area of occupancy
  - (iii) area, extent and/or quality of habitat
  - (iv) number of locations or subpopulations
  - (v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area Low-altitude area】 Reservoir/Pond, Lake/Dam
Threat types:	Water pollution, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	—

執筆者: 坂山英俊 (神戸大学)  
Author: Hidetoshi Sakayama

公表年月: 2025年3月